

第2章 都市づくりの基本目標

1. 将来都市像

これまで整理した、本町における都市づくりの課題や、本町の最上位計画である第六次北谷町総合計画の基本理念などを踏まえ、本町の20年後の将来都市像を以下のように設定します。

人とまちがひとつにつながり 多彩な価値やライフスタイルを持続的に創造する 「ニライの都市^{まち}」

「人とまちがひとつにつながり」に込めた思い

- キャンプ桑江南側地区など駐留軍用地跡地利用の推進や東部地域の新たな都市づくりによる、町内既存市街地と新市街地の一体化による相乗効果への期待
- 本町を含む中南部西海岸エリアにおける世界水準の都市型オーシャンフロント・リゾート地の形成や鉄軌道を含む新たな公共交通の実現、中南部の駐留軍用地の返還による、隣接市町村との広域的な相互連携の進捗への期待
- 町民や地域コミュニティ、各種事業者、通勤通学者、観光客と行政とが一体となってまちづくりに取り組むことへの期待

「多彩な価値やライフスタイルを持続的に創造する」に込めた思い

- 観光業をはじめとした産業振興や、歴史文化、海浜環境などの本町のもつ資源を活かし新たな価値を創造しつづけることへの期待
- 障がいの有無、年齢や性別、国籍などを問わず、様々なバックグラウンドを持つ人々が、暮らし方や働き方において多様なライフスタイルを選択することができるよう、居住環境や就業環境が整ったまちになることへの期待
- 安心して住み続けられるよう、少子高齢化、環境問題、甚大化する災害など、日々変化する社会情勢や社会課題に柔軟に対応するとともに、活力や賑わいを維持・向上し続けることへの期待

「ニライの都市（まち）」について

- 「ニライの都市（まち）」とは、本来、海の彼方の理想郷で、人々の心のふるさととなるものであり、本町においては、「人と自然が調和した、創造性豊かな活力ある民主的な社会」として定義づけしている。
- 本町では、これまで約40年間にわたって振興計画及び総合計画の将来像又は基本理念として『ニライの都市（まち）』を掲げており、本町のまちづくりを進めるにあたって普遍的な要素であることから、これを継承する。

2. 都市づくりの基本目標

全項で掲げた将来都市像の実現のため、町民アンケートやワークショップの意見、本町の課題を踏まえ、今後20年間の都市整備に関わる6つの都市づくりの基本目標を定めます。

目標 1

高度な都市機能が集積する中心市街地の形成により、人・地域・情報の交流が進むまち

計画的な跡地利用による高度な都市機能が集積する中心市街地の形成を図るとともに、まちを面的につなぎ、既存市街地との調和のとれた一体感のある土地利用の推進を目指します。

また、人や地域、情報の交流を支える道路・交通網の形成に加え、新たな情報通信技術との連携を推進し、広域的な公共交通と地域内公共交通のシームレスな連携接続を図るとともに、人にやさしい交通手段の確保により、誰もが訪れやすく、移動しやすい交通環境形成を目指します。

目標 2

賑わいと持続的な活力にあふれるまち

観光と文化が織りなす、本町独自の魅力が光る世界水準の都市型オーシャンフロント・リゾート地の形成を目指します。世界水準のオーシャンフロント・リゾート地の形成に向けては、本町の中心部に集積している観光・リゾート、行政・業務、歴史・文化等の各都市拠点の機能強化と役割分担を図ります。

また、各都市拠点の相互連携を推進するとともに、新たな都市機能の形成を図り、持続的な活力にあふれる都市づくりの推進を目指します。

目標 3

安全安心、かつ快適で質の高い住環境が整うまち

頻発・激甚化する自然災害に備え、地域の防災力の向上を図るとともに、地域の特性や課題を踏まえた都市施設の整備を推進し、安全安心、かつ快適で良好な住環境の形成を図ります。

また、魅力ある街並みや自然景観等の地域特性に応じた景観形成を促進し、ゆとりや潤いのある質の高い住環境を目指します。

目標 4

循環型社会の実現が進み、人と自然が共生するまち

脱炭素社会の実現を目指し、再生可能エネルギーの活用促進や環境負荷の低減につながる都市構造への転換に取り組むとともに、循環型社会の構築により地球環境にやさしい都市づくりを目指します。

また、人々の生活に潤いと安らぎをもたらす自然環境の保全と新たな緑の創出を図ります。

目標 5

受け継がれる歴史・伝統と新しい文化が融合し、新たな価値を創造するまち

1
2 本町の歴史的資源の魅力について情報発信し、先人達から受け継いできた歴史や伝統を保全・継
3 承するとともに、新しい文化の創造を目指します。

4 さらに、受け継がれる歴史・伝統と新しい文化の融合により生まれる本町独自の魅力を活かすと
5 ともに、歴史文化資源を観光資源として積極的に活用することにより、新たな価値を創造するまち
6 づくりを推進します。
7

目標 6

多様な主体による共創のまち

8
9 町民が安全に安心して生涯にわたって自立した生活をおくることができる地域社会の構築を目
10 指し、町民と地域、事業者及び行政が支えあい、共に行動し、新たな価値を生み出す「共創」
11 のまちづくりの推進を図ります。

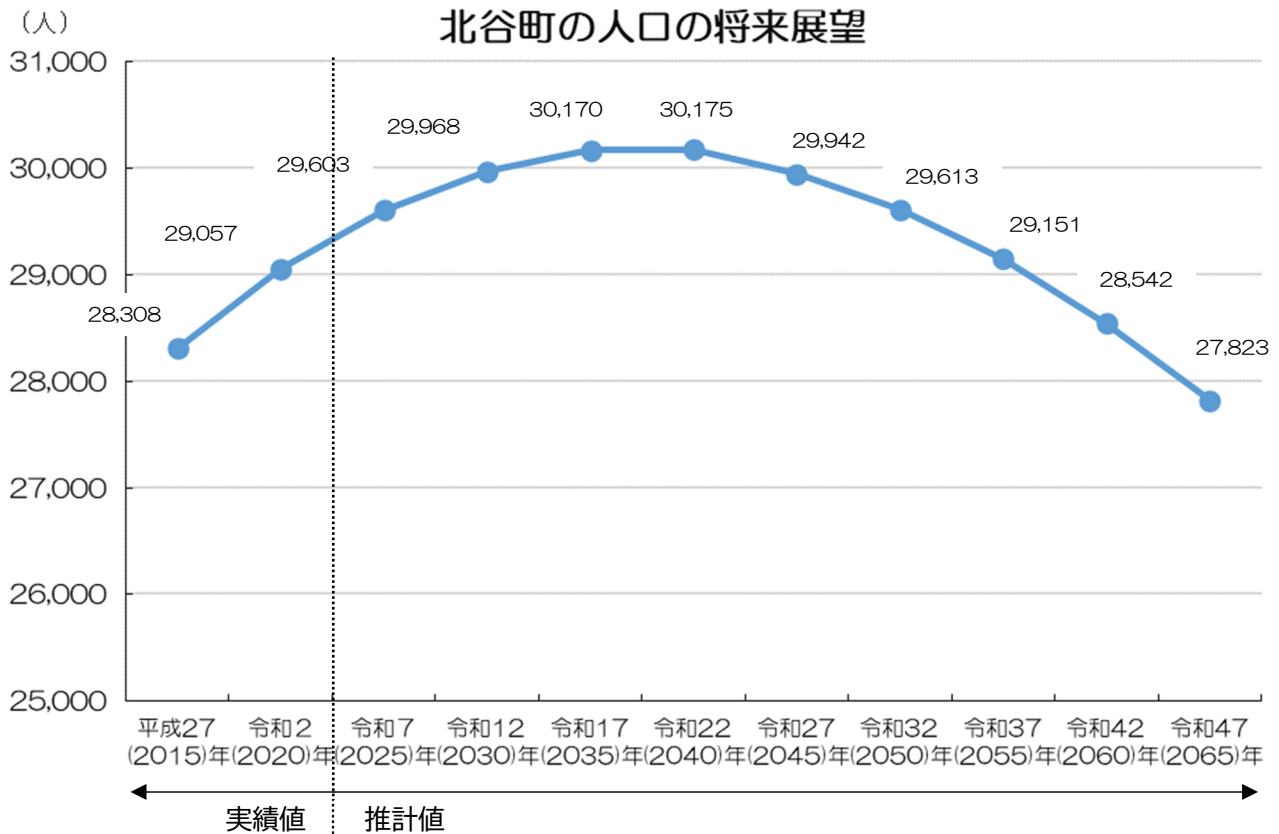
12 また、行政運営にあたっては、民間活力の導入や官民連携を推進するとともに、情報通信技術な
13 どの新たな技術を活用し、誰もが主体的にまちづくりに参画・連携協力できる仕組みの構築に取り
14 組みます。
15

1 3. 人口フレーム

2 北谷町人口ビジョン（令和4年3月策定）において、令和22（2040）年には30,000人程度の人口
 3 規模となることが示されています。

4 本町においては人口が減少段階に突入し、少子高齢化が進行することが考えられますが、北谷町
 5 人口ビジョンの目標に準じ、北谷町都市計画マスタープランの計画年次である令和24（2042）年
 6 においては、この人口規模を継続して維持していくことを目標とし、30,000人と設定します。

7 ■北谷町の将来人口の推移と長期的展望



資料：北谷町人口ビジョン（令和4年3月策定）

8
9
10

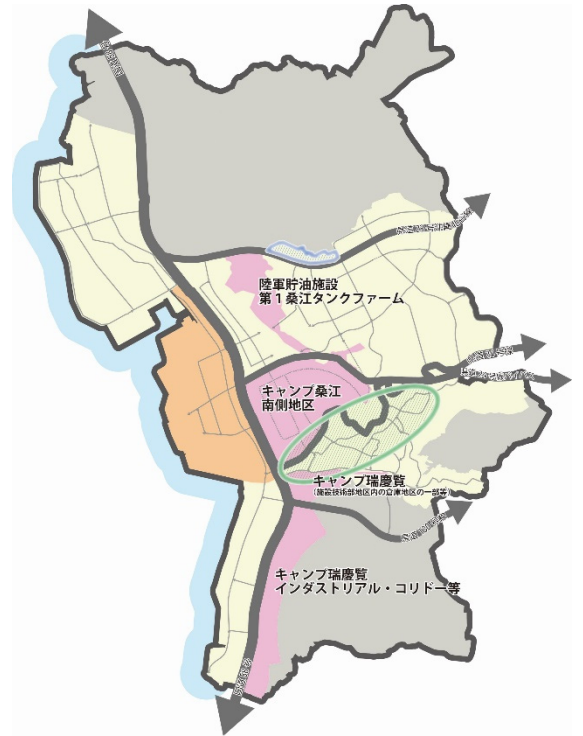
4. 将来都市構造

1) 将来都市構造の考え方

(1) ゾーン

ゾーンは、地域の特徴の面的な広がりや都市の形成において期待される役割を表します。

現況の土地利用や地域の特徴を踏まえ、「観光・リゾートゾーン」、「海浜レクリエーションゾーン」、「住宅地を中心とした市街地ゾーン」、「新しいまちづくりゾーン（既成市街地）」、「新しいまちづくりゾーン（返還跡地）」、「軍用地」の6つに区分し、観光レクリエーションや住生活が調和した土地利用の誘導を目指します。



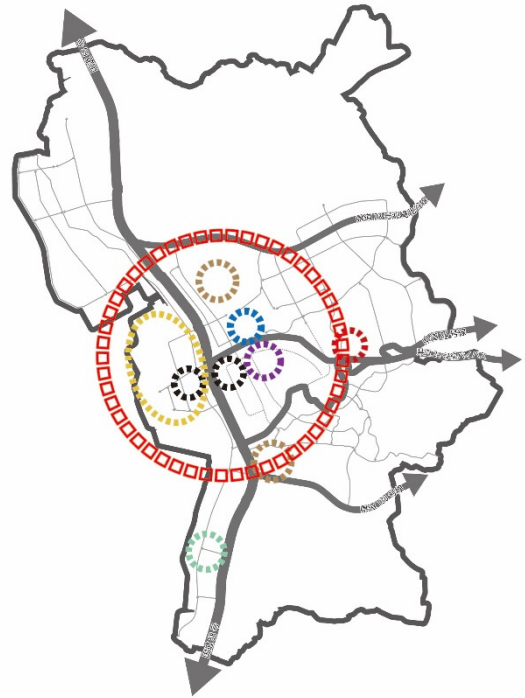
■各ゾーンの考え方と該当地域

凡例	項目	考え方	該当地域
	観光・リゾートゾーン	主に都市型リゾート機能、観光・商業機能、レクリエーション機能等を持つゾーン	・アメリカンビレッジ地区 ・フィッツシャリーナ地区 ・美浜地区 周辺
	海浜レクリエーションゾーン	主に海岸や海を活用したレクリエーション施設、スポーツ関連施設に利用するゾーン	・西海岸沿い一帯
	住宅を中心とした市街地ゾーン	主に住宅地を中心として、各種都市施設や都市機能の整備・充実を図るとともに、自然との調和や安全で快適な住環境づくりを進めるゾーン	・既存市街地
	新しいまちづくりゾーン（既成市街地）	地域特性に配慮した土地利用を図るゾーン	・商工業研修等施設及び老人福祉センター 周辺
		住宅密集による課題を改善し、良好な住環境の形成を図るゾーン	・東部住宅密集地域 周辺
	新しいまちづくりゾーン（返還跡地）	計画的な跡地利用を推進し、周辺の既存市街地と調和のとれた一体感のある土地利用を図るゾーン	・キャンプ瑞慶覧（施設技術部地区内の倉庫地区の一部等） ・キャンプ桑江南側地区 ・陸軍貯油施設第一桑江タンク・ファーム ・キャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドー地区
	軍用地	—	・嘉手納飛行場 ・キャンプ瑞慶覧

1 (2) 都市コア

2 コアは、ヒト・モノ・コトが集積した求心力のある
3 場所を表します。

4 交通や主要施設などの配置状況等を勘案し、本町の
5 中心となる「ちゃたん交流コア」のほか、サブコアと
6 して「行政・業務コア」、「観光・リゾートコア」、「暮
7 らし・レジャー融合コア」、「歴史・文化コア」「防災
8 コア」、「交通コア」、「知の拠点」の8つに区分し、体
9 系的なコアの整備・誘導を行い、持続的な発展と生活
10 の質の向上を目指します。



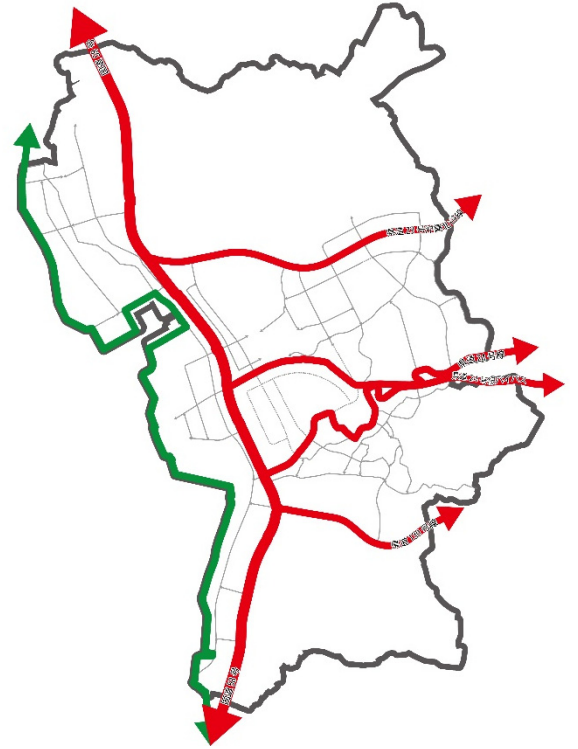
17 ■各コアの考え方と該当地域

凡例	項目	考え方	該当地域
	ちゃたん交流コア	多様な都市機能が集積する本町の中心拠点	・役場庁舎～美浜区 周辺
サブコア	行政・業務コア	行政・業務機能が集積する拠点	・役場庁舎 周辺
	観光・リゾートコア	世界水準のオーシャンフロント・リゾート地を形成する賑わい創出拠点	・アメリカンビレッジ地区 ・フィッシャリーナ地区
	暮らし・レジャー融合コア	海浜レクリエーションゾーンや周辺住宅地との連携を考慮した地域生活密着型商業機能及びサービス機能を有する拠点	・安良波線と安良波中央線の交差点 周辺
	歴史・文化コア	歴史・文化機能や学習機能を有する交流拠点	・伊礼原遺跡 周辺 ・北谷城跡 周辺 ・ちゃたんニライセンター 周辺
	防災コア	防災機能を有する拠点	・ニライ消防庁舎 ・給食センター 周辺
	交通コア	異なる交通手段のシームレスな乗り継ぎが行われる交通結節拠点	・キャンプ桑江南側 ・美浜駐車場
	知の拠点	町の新たな魅力の創出やグローバルに活躍する人材の育成に向け、学び・働く機能を有する拠点	・キャンプ桑江南側地区の一部

1 (3) 交通・交流軸

2 交通・交流軸は都市の骨格を表します。

3 ヒトやモノ、公共交通のネットワークとなる「交通
4 広域幹線軸」、「地域幹線軸」とヒトの交流を促進する
5 「交流軸」に区分し、各コアが相互に連携、補完でき
6 るよう効率的なネットワークの形成を目指します。



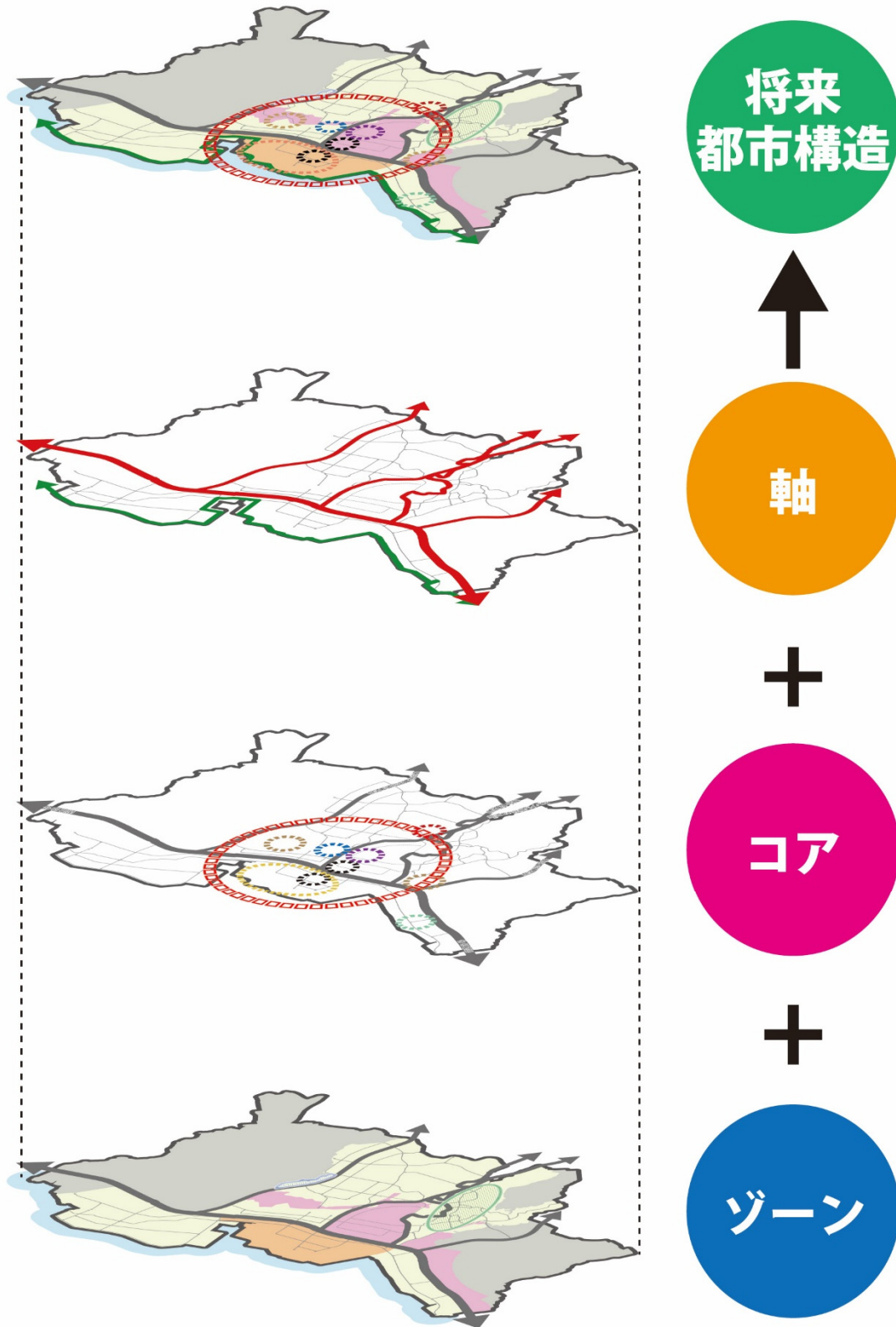
17 ■各軸の考え方と該当地域

凡例	項目	考え方	該当地域
↔	交通広域幹線軸	広域的な道路・交通ネットワークであり、本町の都市骨格の主要軸となる道路	<ul style="list-style-type: none"> ・国道 58 号 ・県道 23 号沖縄北谷線 ・県道 24 号線バイパス ・県道 24 号線 ・県道 130 号線
→	地域幹線軸	地域間の道路・交通ネットワークを形成する道路	<ul style="list-style-type: none"> ・上記以外の都市計画道路、1 級町道及びその他の主要な町道
↔	交流軸	ちやたん交流コアを中心として、北谷町の沿岸部を南北に貫いている歩行者ネットワークで、住民や来街者との交流を促進する軸	<ul style="list-style-type: none"> ・沿岸部遊歩道

18

1 2) 将来都市構造

2 ■都市構造図の構成



3

4

1 ■北谷町将来都市構造図

